

35 年中行事「御日待講」いろいろ

備前国宇甘郷の年中行事は、御日待講が講中の持ち回りで1月、5月、9月の3回催されるだけでした。今考えるには、日蓮宗不受不施派という土地柄の所為も大いにあったかもしれません。

とにかく、大井郷で言う御大師様、お地蔵様、金比羅さん…、加えて阿弥陀堂、薬師堂とか多くの神仏の名を耳にして育った記憶はありません。もっとも、今程に満ち足りた時代ではありませんでしたから年数日の御日待講の日は、大人も子供も、ご馳走と、お酒、ダ菓子で単純に腹が膨れるだけのことでしたが大変幸せな一日でした。

さて、隣国の御日待講はこれくらいにして、大井郷の御日待講が、地区によって違いがあることに気付きましたので、先輩諸氏には既にご存知と思ひながら、ほんの少し講釈を垂れんとするところです。

平成31年1月13日午前9時40分、快晴です。所は粟井柏尾の公民館。地区の人が大勢集まっています。公民館の玄関前には、青笹2本に注連縄を掛け渡した定番のお飾りが用意されています。聞けば御日待講と言うことなので見学をお願い致しましたところ快くOKをいただきました。我が八軒町では、去る6日に済ませたところで、内容・次第とも似たような筋書きを頭に描きながら10畳一間の奥に着座しました。



檜の葉で護摩焚(山上講のメニュー)



仏式御日待講(般若心境)…実は山上講

さて、本番が始まりました。ところが、最初から八軒町式とは全く異なるではありませんか。

先ず、座敷中央に据えた焙烙の上で生の檜の葉に火が付けられます。燃やすというより、煙で燻すとばかりに、焙烙の上に檜の生葉が次々に積み上げられます。

部屋の中はたちまちに白煙が充満。そのうち目、鼻、喉、口は開けてはおられない状態になります。たまたま立ち上がって玄関を目指すのですが、目の先は一寸先まで真っ白闇？何も目に入りません。両手で前方の虚空を掴み、両足の裏とつま先の感触を頼りに一寸刻みの摺り足移動です。一番奥の方へ座ったものですから窒息寸前によりやく屋外に逃げ出ることができました。化学物質による煙ですと、どうなったか保証はありません。檜の葉ということで事なきを得た次第です。所謂、護摩を焚くということで、参加者と会場のお浄めができたと言うことでしょうか。

続いて、不動明王の掛軸に向かって般若心経を唱え上げます。

次は、太陽に向けてしつらえた祭壇へお供え物を据え、一同大祓の祝詞を奏上します。祝詞が終われば一連の御日待の儀式は終わり、後は直会です。

ということで、柏尾地区では仏式・神式両様による御日待講らしく、世話役の田中茂二さんにその事をお尋ねしたところ、「神仏両方です。仏の場合は、家によって宗派が異なるので、般若心経を



神式御日待講(大祓祝詞)



柏尾の掛け軸 (本来は山上講のもの)

唱和しています。」との事でした。

さすが吉備上道臣田挟が朝鮮半島任那で反乱を起こしたとき、雄略天皇から討伐を命ぜられた、吉備海部直赤尾が居宅を構えたと伝わる歴史ある地とはこんなに念の入ったものかと感心しました。

帰路、柏尾温泉付近で会った久田の秋山一樹さんに始終をお話したところ、「そりゃー山上講じゃ。昔は、久田でもやとった。親父の代理で出て、全国の山の名前を唱よった。」という話です。そこで早速、久田の大先輩、金屋の中田隆之さんにお尋ねしたところ、「いつ頃までの事か、山上講は、毎年正月の内に楠原・中田株6軒ほどで、大井栄町河原歯科医院の前の藤本さんが山伏の装束を着て導師になって、ホラ貝を吹き、鐘をタタキ賑やかにやった。御日待講も1月だったが、正月中の行事が二つも重なるので、御日待講の方は、2月の諸神講の中でやることにしている。」とのこと。

つまり、柏尾地区では、山上講と御日待講を長い間一度にやったことが、何時のまにか一つの行事、御日待講になってしまったということのようです。

幸い、久田地区に山上講で用いた道具が一式保存されているということなので、早速拝見させていただきました。

拝見いたしますと、役行者の掛け軸は相当に傷み、秋山一樹さんが唱えた、経文も適当にチギレ、前後の繋がりが分からないのですが、最後の部分に文化12年(1815)亥正月吉日とありました。

修験道を教義に加える天台宗寺門派のお寺に置かれる仏様？は、不動明王と役行者の2体です。柏尾と久田の掛け軸は、これを描いたものですが、それぞれに若干の相違が伺えます。柏尾の掛け軸は新しいものですが、御日待の次第は300年前の形を今に伝えるものに違いありません。

また、御日待講に対して月待講がありました。「二十三夜」とも言うそうです。

平成30年12月23日に催された「第1回備中国大井郷歴史散策交流会」で、多摩美術大学美術館学芸員の淵田雄先生と交流会参加者が久田の阿弥陀堂を見学した時、地区の人達が「今日は二十三夜」ということで夕方近くに阿弥陀堂へ集まられました、まさにその日が月待講の日であったということです。

月待講は、陰暦月の17日・19日・23日の夜、月の出を待って供物を供え、宴を催し経を唱えて月を拝み、悪霊を追い払うと言う行事。特に、1月、5月、9月の二十三夜が盛大だったそうです。

冒頭の備前国の御日待講とは、同月ながら昼夜逆転しているのも興味深い事ですが、ともかく、久田地区の一年は、山上講に始まり月待講で終えていたようです。皆様の所は？ エ！止めた？



久田の山上講掛け軸